



105/106合併号 400円

## 〈あごら札幌〉の10年……3

女が変わるとき社会が変わる

小沢遼子……4

座談会・自らを装う ほか……7

老人を介護して 石川房子……12

“均等法元年”へスタート……16

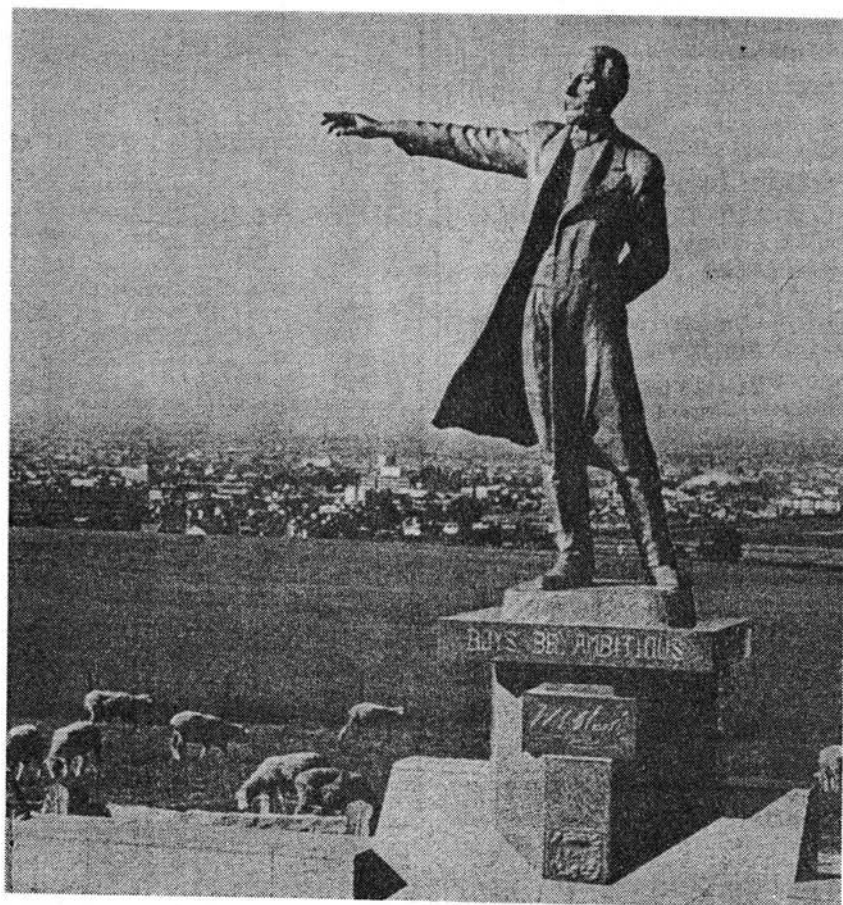
均等法・労基法新旧対照表……18

ことしもヤります！名古屋の女たち……22

続刊の方向でさらに検討を……25

TVから……21 あごらのあごら……26

付録・均等法・労基法、省令・指針全文



各地の〈あごら〉へどうぞ (カッコ内は  
例会日と会場)

□あごら旭川 (第3土曜・13時30分—16時)

・北海道小川郡東川町西5号南3 小坂啓子

・電話 0166=82=2598 〒071-14

□あごら札幌 (毎月13日喫茶「ミドリ」)

・札幌市西区琴似1条6丁目グランドハイッ琴似  
408号 細田英理子

・電話 011=644=2927 〒063

□あごら仙台 (時間、会場とも流動的)

・仙台市茂庭字生田前4-65 三船照子

・電話 0222=45=5994 〒982-02

□あごら柏 (時間、会場とも流動的)

・千葉県印旛郡白井町大門口1-7-20 桑原ちあ子

・電話 0474=91=4843 〒270-14

□あごら新宿 (第1金曜・18:00~19:30)

・新宿区新宿1-9-6 斎藤千代

・電話 03=354=3941 (BOC) 〒160

□あごら武蔵野 (第4土曜・19時  
かわら版事務所)

・小平市小川町1-763-86 丹羽雅代

・電話 0423=43=6749 〒187

□あごら京王 (第2水曜14時—16時  
福井宅または調布婦人会館)

・調布市仙川町3-12-32 福井浅子

・電話 03=308=7871 〒182

□あごら湘南 (休会中)

□あごら東海 (時間・会場とも流動的)

・名古屋市西区平中町90 長谷川友子

・電話 052=501=6969

□あごら京都

・京都市左京区一乗寺楽田町56-1 塚崎美和子

・電話 075=791=4623 〒606

□あごら大阪 (第3日曜・11時30分—15時)

・吹田市岸部中1-29-4 藤井里子

・電話 06=387=6574 〒564

□あごら山口 (第1日曜・11時—17時  
森川宅)

・下関市長府黒門東町1-15 森川万智子

・電話 0832=46=3181 〒752

□あごら九州 (第2土曜・14時30分、第4土曜  
18時30分、福岡市立婦人会館)

・福岡市中央区笹丘2-4-6 小島サカエ

・電話 092=521=7624 〒810

□あごら佐世保 (第2・4金曜10時30分—  
12時、佐世保市立図書館)

・佐世保市瀬戸越町1415-25 内田佳崇

・電話 0956=49=8591 〒857-01

□あごら鳥取 (準備中)

・鳥取市古海1147 高草団地9号 前田享子

・電話 0857=23=3074 〒680

ついに出了！ 問題作

山下智恵子著

# 幻の塔

——ハウスキーパー熊沢光子の場合——

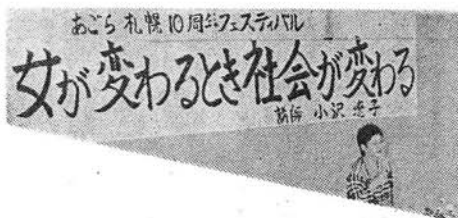
昭和十年、二十四歳の若さで獄中に自死した熊沢光子。彼女の生の軌跡は、これまでほとんど明らかにされてこなかった。良妻賢母のための教育を受けながら、貧富の差を生む社会構造を憎み、安穩な生活を捨て自ら困難な運動に飛び込んだ光子。が、「その人に尽くすことが革命や人民のため」と信じてハウスキーパーになった相手は特高のスパイだった。

長い歳月をかけ重い資料をたずねてついに生まれた長編。

**BOC出版部**

〒160 東京都新宿区新宿1-9-6  
電話03(354)3941 振替東京3/39331

# 私たちの 十年



闘いは人を育てる。

10月 5日、〈あgora礼幌〉10周年記念フェスティバルに  
浦和から駆けつけてくださった 小沢幸子さんの言葉である。

1975年 6月、小さな点が 小さな面となって  
礼幌に ひとつの〈あgora〉が生まれた。

あれから10年。

ヘルメットひとつ 手にしたわけではないけど、  
しなやかで したたかな、それは まごうかたなき「闘い」の10年だった  
と、やはり思う。

それぞれの職場で、家庭で、時には行政に向けて、  
そして何よりも自分自身との、

果てることのない「闘い」の日々だった。  
様々な小さな「闘い」を さいの河原のように積み重ねて、  
いつの間にか変わっていく—— 人も社会も。

ちょっと目を上げて見れば、  
女たちのネットワークは世界規模になっている。  
そこここに、小さな点や線を結ぶ動きが生まれている。

10年前にはとてもできなかったことが、今は可能になっているじゃありませんか。  
小沢さんの歯切れのよい声が 耳に心地よい。

時に、変化は ファッションや風俗だけのように見えることもあるけれど、  
その後から、確実に 何かが変わってきているのだ。  
そして、これから変わるのだ。

跡絶えることなく。



バザール風景



# 女が変わるとき 社会が変わる

小沢 遼子

今日は、母の世代と私の世代、そして今二十歳くらいのお嬢さん、その人たちを取り巻いている状況がどう変わってきたか、見まわすとやっぱり良くなってきているんじゃないか、女にとってこの年月は決して捨てたものじゃないなかったという話したいと思っています。私は女の集まりが好きなんですが、女の場合、日常を紡ぐような暮らしをしているから、男のように社会的な条件で分断されないで、立場を越えているんな話ができるんですね。また、女たちのネットワークが国際的に出来ていて、どこかしらつながりを見つけて誰にでも会うことができるようになってきました。そういうことを考えると、ちょっと目を上げて世界を見れば、私たちを取り巻く状況は悪くないんだという気がします。

## 憎まれたリブ

ウーマンリブの登場以来十五年。何が変わったのか、私は何をしてきたのか、整理しようと思っているところなんです。いろいろなことがありましたね。十五年前、いわゆるウーマンリブが衝撃的に日本に登場したんですが、これは大層憎まれた。マスコミなど、リブに対してはひたすら揶揄の姿勢で取

材するものですから、運動をしている女たちが怒りまして、徹底的に闘いましてね。そのためにずいぶん不評をかったものです。

## 可愛くない女はコミック

私は、敗戦後非常に短い期間でしたが、男女平等を実現しようとしていた教育の中で高校時代を過ごしました。ですから、女性解放なんてもっと昔の世代の人はともかく、自分にはあまり必要なものだと思っていなかったんです。ところが大学に入ってみますと、自治会等で議論しても、男どもは自分が負けそうになると「うるさいね、オバチャン」「オバチャンのヒステリー」などと言うんです。すぐくしゃくにさわりましたね。きちんと議論しようとしているのに、コミックにされてしまうんですから。

私は身体が大きくて、小さい時から可愛くないと言われ続けてきました。今思えば、もし可愛いと言われてきたら、人生を誤っただろうと思います。が、「可愛い」「可愛い」と言われてきて、だんだん年をとって白髪は出るわ、シワはできるわ、可愛さにしがみつけなくなった時に他に代わるものがなかったら、どんなに絶望的だったろうと思います。今の

私は、昔から困るとされてきた大声だとか大きな身体だとか、特性を生かした仕事を生きているから良いんですが、子供の時は悩みましたね。なぜ、身体が大きかったり、勉強したいと思ったり、議論やウロウロしたりするのが好きだということで可愛くないと言われるのか、女だからということでは納得できないとは思っていました。でも、世の中全般に背くというのはなかなか大変なことだったんです。それで結婚してからも、子供の頃から女らしくないと言われていましたから、何かうまくいかないことがあると、すべて自分の責任だと思いこんだんです。それは辛いことでした。大家族の長男の嫁として、自分の思い、心の中のキバのようなものを殺していたんですね。

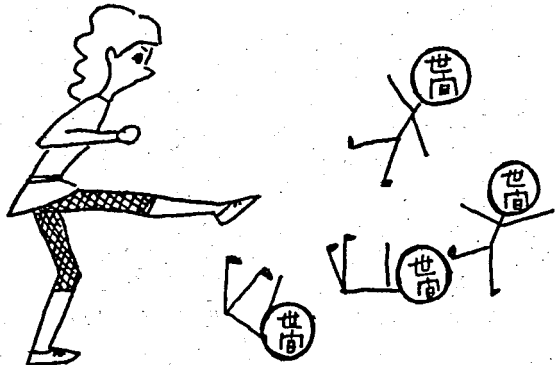


可愛くなくちゃ...

### リブに出会ってホロッ：

その頃、市川房枝さんが紹介していたアメリカのウーマンリブの記事に出会ったんです。男と女の間には根本的な矛盾がある。長い歴史の中で全く別なものとして育てられて今存在しているのだから、女たちが解放されたいなら、まず男との間にある基本的な矛盾を認めることからしか出発できないと書いてあったんです。それを読んで、何でも自分で責任とらなくて済む、他に理由があるらしい、と思ったら、ホロッという感じでしたね。

私が結婚したとき母がひどく嘆いたんですが、今思えば、自分のたった一人の女の子に、自分が生きられなかった人生を期待していたんでしょうね。その母がこの頃ボツンと言うんです。「あんたは三、四歳の頃から今みたいなこと言ってたよ。//私は大きくなってもお母さんにはならないよ。家の中で働いて皆に怒られてばかりいて。そんなお母さんにはならない//」って言ってはバクバク御飯を食べていたよ。やっぱり母親のこと見てたんですね。聞いてみると、同世代のリブの人たちは皆そんな記憶を持っているんですね。ある時まではキヤッキヤ男や子供に熱



ナンダ、コレッポッチカ

中していても、ある時ふと、母を通して、祖母を通して、あの人の人生は何だったんだらう、どう生きたんだらうと、それこそイッキ、イッキ、で追体験してしまおう。

### 世間は十人

こんな時、リブに出会って燃えましたね。私はその頃、ベ平連におりましたが、デモや

集会に参加している時はべ平連でも、一步離れれば平連である必要はないんです。しかし、リブの場合は一対一の男と女の間に矛盾があるわけで、デモや集会だけでは何も変わらない。毎日その矛盾と向き合うことは大変しんどいことですし、憎まれる運動なわけです。政党や組合からも嫌われました。向こうの理論で説明できないところになるとカッカしちゃってね。そんなところを黙っていいで一つ一つ言っていきましたから、世界を敵にしたわけですが、リブの闘い人を育てるんです。その頃の女たちの元気のよさは天をつくようでした。

今の若い人たちはもっと上品にやっています、が良いですね。現実には女は割をくって、何をしても何か言われるなら、何でも好きなようにやればいいんです。世間がうるさいとか言うけど、現実には何かやったら時とやかく言うのは、自分に影響を持つ人たち、親とか兄弟とか、せいぜい十人以内なんです。その十人さえ蹴散らしてしまえば後は簡単だと思えますね。

世の中は一度気がついちゃうと戻れないというところがあるでしょう。十数年前には嵐が吹き荒れたけど、今は優生保護法だって、

女たちの組織されない恐しさみたいなのでも、私たちが勝ったと思います。均等法にしても、中身はともかく、何か作らなければならぬ状況があったんだと思いますね。

#### 女が変わるとき

##### 社会が変わる

今の若い人たち、保守的だとか、ダメダとか言われているけれど、少なくともものびのびしているでしょう。生きる上で沢山の選択肢があつてうまくいく、とそう信じている。それはそれでいいんじゃないでしょうか。若い男女のつきあいをみても、二つ三つ年上だからって、「オバチャン、あんたヒステリーだろう」なんてことはよもや言わないだろうと思いますね。いろんなことが少しづつでも変わってきているんです。

今、女の自立についていろいろ言われていますが、私は、本当に家事がやりたい人にも働かせたほうが良いと思っている人も。そんなこととお互いにチョコチョコつつき合うことはないんで、それより一番大切なのは差別のない社会的システムなんです。女が一人で生きていきたい、結婚という概念を否定し

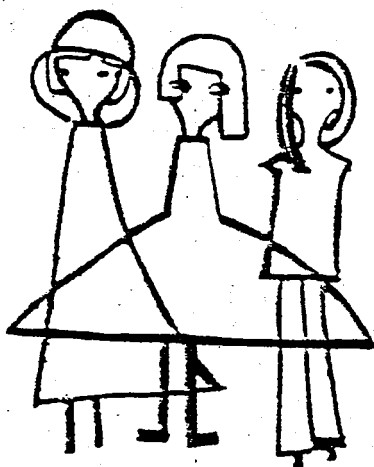
たいと思った時に、生きていけるようにきちんとシステムとして保証されていることが大切なんです。私たちは長いこと、私たちはこうしたい、差別がなくなればこう良くなります、女性解放は男性解放でずなんて、差別が良くないんだということをいちいち立証しなければなりません。今、そんなに説明しないで、「これは差別だから法律的にきちんとしていただきたい」と言えるようになりました。システムとしての保証を求める時代になったんですね。

これはものすごく大きな進歩だと思っています。知らないうちに、体験として、情報として、私たちのまわりに少しずついるんなものが蓄積されてきているんですね。これから高齢化社会になっていくと、大幅に社会的なシステムの整備をしなければならなくなります、それは全部、今までウーマンリブが言ってきたことなんです。

ですから、社会を少しずつ変えていくきっかけを、女たちが握っているのだと、女たちがどういう風に変わっていくのか、女たちは何をどう変えたいと思っているのか、それがこれからの世の中を決めるだろうと、私は思っています。(講演を札幌でまとめました)

## 座談会

# 自らを装う



<あごろ札幌>が誕生してから  
今年で10年になります。  
そして、それは「国連婦人の10年」  
でもありました。

私たちは、この時期  
今一度、身近でそれでいて  
意識にのほりづらい事柄を  
見直してみようと考えました

そして選んだのが女の服装です  
女の服装は階級差別と  
性差別の産物でした

しかし、女たちが自己主張を始めたとき  
服装にも変化があらわれました。

ショーの中で、服装の歴史を再現し  
現在の服装は、将来は、と  
楽しく、大胆に表現しました。

今回のショーをきっかけとして//装う//と  
いうことについて、今一度話し合ってみたい  
と、今日の集まりをもちました。

△ショーを振り返ってV  
H ショーの第Ⅲ場の私たちが選んだ服を着  
て登場するところで、どんな服がでてくるか

と楽しみにしてたのに、動きやすさ、着やす  
さばかりが強調されて、ちょっと期待はずれ  
だった。  
I 生き方が似たり寄ったり、ってことかな。

A それにしても//着ること//をめぐって、もったいような要素があるような気がするね。作られた女らしさを否定するからって即スカートはダメ、みたいに思いたくないの。

T 私は、今まで何気なくハイヒールをはいていたんだけど、ショーのことで集まった時に、みんなすごく楽な格好をしているのをみて改めて着るということはその人の生き方につながっているんだなと感動したの。そしてベッタンコ靴にかわったの。

E この//自らを装う//がきっかけで？

T そうなの。私単純だし、無理して女らしく見せようと思ってハイヒールをはいていたわけでもないから。改めて身のまわりのことを見直す、ということでも//あごろV//という場が刺激になってよかったと思っているわ。

### △美意識と社会V

A 装う、というのはひとつの自己表現で、おおげさに言うところの芸術というのか、美意識の問題になるんじゃない？

M その自己表現とか美意識っていうのは割とクセモノという気がするの。本当に主体的に選びとったものなのかどうか。

Y 昔中国で行なわれていた//てん足//だっ

て、当時は女自身が美しいと信じてたんだものね。

E ショーでも説明があったけど、その方法が残酷なのよね。効果を急ぐあまり、足裏に針を刺して出血させ肉を腐らせたりして。

O 中国の女たちはどうしてそんな残酷なことに甘んじたのかしら。

H それを男が好んだから。

Q たったそれだけの理由？

H そう。そこが恐ろしいと思うの。男が暴力で女を押さえつけて//てん足//したのではなくて、女自らが男の好みに合わせてやったことなの。

I 女が自ら、って言うけど、本当のところは足の女は醜くて結婚もできない。結婚できないってことは生活していけないってことから、無意識下には大きな強制力がああったと思うわ。

M 他の支配と違って、性別支配は美意識がらみになっているから見えにくいのね。//てん足//した女は美しいと千年も言われ続けたら女たち自身がそう思い込んでしまつて、その残酷さも消し飛んでしまつていうのもわかるような気がする。

Y 理屈抜きに、美意識、習慣としても定着

してしまつと、それは法律よりも強く人々を縛り上げてしまつていい例なんじゃない。

### △美意識と流行V

O 流行にとらわれる、っていうのと何か似ているように思うんだけど。

M 一昔前にミニが流行つたでしょ。老いも若きもみんなミニになってしまった。

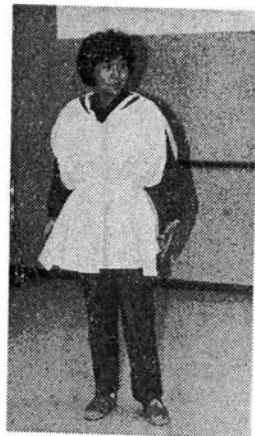
O 私は内心ミニが嫌いだったけど、やっぱりミニをはいてしまった。

H 流行を拒否する、っていうのもかなりの勇気がいるんじゃない。

T それこそすごい自己表現で、主体性がなにとやれないわね。

O あの時の//ミニ//は、ゆるやかな意味での//制服//だったんじゃないかな。そうね。

I 嫌でも、それを着ていることで//みんな





一緒の安心感があつたりして。

M 私ね、ダブルブルックが流行り始めたとき、なんてだらしな服だらうって思ったのね。でも少し経ってみるとだんだん気にならなくなった、そのうちに、あら素敵と思うようになったの。

H 初め異質に感じていたものが、見慣れることによって美しいと感じることによってよくあるわ。

M でも、見慣れるといっても商業主義にのせられて見慣れさせられているという側面も大きいんじゃないかな。

Y 流行が定着すると、それしか店頭になくなくなるしね。

I 一見自由なようだけど、性差別と、その上、商業主義にもどっぷり漬かってるわけよ



ね。

△あらためて「おしゃれ」すること▽

E ところで、昨年「女が働くこと」で話していただいた△東海BOCVの高橋ますみさんも今回の小沢遼子さんも、おしゃれを楽しんでるみたいで素敵ね。

O 私、おしゃれな人ってあまり好きじゃないんだけど、彼女たちはイイナと思うの。どうしてなのかな？

M おしゃれには二通りあるんじゃないかな。人と差をつけるためのおしゃれと、コピ（媚）でもコジ（誇示）でもない本当の自分自身が楽しむおしゃれと。

Y 「見せたい」「見られたい」欲求って誰にでもあると思うな。お二人の場合は、外見で判断される危険を百も承知で、そんなことにはおかまいなく楽しんでるから好感がもてるんじゃない。

O 少し見えてきたような気がするけど、自分はどうかっていうと難しいね。

Y 外見によって、その存在が丸ごと見られてしまうことって多いからね。

M そういうふうに見られることへの反発でわざと外見にかまわなかったりしている。

## 参加記

「女は足もとから変わる」

谷 百合子

△あごろの例会には数度出たが、正直言って失望を感じ、それっきりになっていた。そんな私が十周年記念にかかわってみようと思ったのはファッションショーがあったからである。根がミーハーなので面白そうなことにはすぐのる。リブの女が自らを装う？珍しく教条くささないテーマじゃないか——と。

結果は、ショー自体は今一つのところで終わったが、私には大収穫であった。準備のミィティングの時、松平さんがさりげなく言った一言に感銘し、△あごろに対する見方も変わった。私が「中年の女が解放された服装をしようと思っても市場は若者中心で、美意識を満たしてくれるものが無い」と言ったのに対し「そういう中からでも選び取っていくのは自分なんだから」と。△あごろ△と共に地道にテーマに取り組んできた人の姿勢がうかがえた。それからの私は服も柔なものに変わり、ヒールをぬいでベッタソ靴で大地を感じて歩いている。しかし文化はゆっくり変わるものだ。時々和服やワンピースを着て、自分の中にあるいろいろな要素を味わいたい。

H そうなの。かまわない格好してる分には理由はいらないけど、おしやれするには自身に対して理由があるの。

H まさに、作られた「女らしさ」とらわれたくないということにとらわれているわけね。

M 本当はもっと素朴に自分の身を飾る欲求

へあごら北海道Vが初めて「あごらミニ」編集担当した時のこと。「北海道が情報の送り手になる以上、まずアイヌ問題にふれるのが当然」という意見と、「今まで私たちがアイヌ問題に取り組んできたわけでもないのに軽々しく扱えるような事柄ではない」という意見とでサンザンもめたが、結局はこれを機会にやれるだけやってみようということになった。

幸い、「和人に同化して差別から逃げるのではなく、アイヌとしての誇りを持って生きよう」と呼びかけて新聞を発行していたという女性たちと知りあえた。その内の一人が、「アイヌ同朋のためになるならば」と、新聞活動と廃刊に追われた事情、そして「和人に話す気などなかった」自己史を聞き書きさせて下さった。想像以上の「今、この地で」の

みたいなのがあつて、それは決して悪いことじゃないのに、長い歴史の中で差別と商業主義に歪められてしまったと思うの。

Y そこら辺をしつかり押さえて、その上で素朴におしやれを楽しめたら見る人までが楽しくなっちゃう。

I たかがファッションといっても、結構複

差別に驚かされながら編集作業を進めた。ところがドタンバになって「活字にするのはやめにして」と言われた。陰湿な差別でいまだに転居転職を余儀なくされている彼女の生活の厳しさを改めて思わせられ。私たちは急拠、アイヌに一言もふれない「ミニ」を作った。

## 〈あごら北海道〉 ウラ話



呼びかけ人  
山口 里子  
(在・神奈川)

やはり問題は重すぎたのだった。

あれから八年になる。私は札幌に行くとな彼女のお連れ合いの古本屋さんをのぞく。一緒

雑な意味合いがあるのね。

E 服装は、基本的に社会的記号と自己表現の手段という二面性を持ってきたからね。

O 自分自身の内部の点検をいろんな角度からしてみるとおもしろいわね。

H とらわれのとらわれなんてものからも解放されなくちゃね。

に聞き書きをした鈴木トミエさんは、絵本「アイヌ昔話」を出版し、今三冊目に挑戦中。挿絵の着物の模様一つにも、誇るべきアイヌ文化を正しく伝えるよう気を配るという。へあごらVが与えてくれた豊かな出会いの一つがここにもあったのだ。

もう一つ。拠点活動が続くにつれ、メンバーの生活も変わった。独身が専業主婦だった人たちが子育てに追われ、仕事をもち、それに忙しくなり、或いは夫の転勤等で遠くに越した。困難な状況だからこそ支え合える仲間が大事と頑張る古顔に、新顔が加わって再出発といったムードの中で、中島通子講演会、今こそ女の労働権確立を」が企画された。と言っても育児と仕事の両立にあえいでいる、ついこの間まで専業主婦だった女たちの集まり。お金もないし講演会の開き方も知ら

ない。皆手探りで動いた。私は講師交渉係。里婦りをタテマエにして上京し、通子さんの事務所に。彼女と、その秘書小林さんとは十年前から親しくさせていた。会ってすぐ小林さんが「相談して何?」「通子さんに講演に来てもらいたい」「それで予算は?」「シ

ッ、全然ないのよ」「えー?!」でも小林さんを座らせて、お茶を入れて下さった通子さんにもう聞こえてしまっていた。そして全くタダの交渉は何も切り出さない内に成立。あのだ忙で高い(?)中島弁護士に、ホテル代も節約でウチに泊まっていたく形で初めての講

ごく身近に、生まれ育ちがそう違うでもなく、おかれた環境もそう恵まれてるでもなく、同じようなことで悩み、考えている、ごく普通の女がいること。華々しくはないけれど、ためらったり迷ったり

しながらも、ごく日常的な生活のなかで、変えようとつみ重ねる女のいること。

一人一人の顔が見え生きた息づかいの感じられるへあごら。あつうの女が立ちあがり、

歩きつづける勇気を生みだすのに、本だけでは得られないものがある。拠点のへあごらはフェミニズムの中でも、そこを支えてきた。いつも扉を開き、初めての人を迎え入れる

## あごら札幌10年 これから



久須美 房子

へあごら。いつもみんなのエネルギー供給所だけど、それを用意してくれる//里のお母さん//がいてくれることを、私たちは期待してしまっている。母さんがいないと、例会も通信も、//家の中のこと

と//みんな動かない、なんて甘える私たち会員、そのうちきつと粗大ゴミ?

運営に関わるモロモロのこと、雑用から企画まで。みんな他人まかせのお客さん気分では、いずれ熟年離婚になってくる。互いのしんどさを理解しあい、担いあう……//自立した会員//への成長。これが十年をむかえたへあごら札幌全員の課題になってゆくのでは。

演会を持てたのだった。今から五年前になる。今、へあごら札幌Vはもつと慣れた手つきで編集や催物活動を進められるようになっただろう。様々な出会いや姉妹愛の中で、女たちはこの十年、少しずつ成長できてきたとつくづく思う。

### あとがき

十月五日、浦和から小沢遼子さんを迎えてへあごら札幌十周年記念フェスティバルVを催しました。

小沢さんの講演。彼女のサービスピス精神と底知れぬエネルギー、そしてユーモラスなたとえ話で抱腹絶倒の会場。その雰囲気をお伝えすることは、読者の旺盛な想像力とへあごら札幌の編集力をふりしぼっても、活字では至難の技だつくづく思った——残念。元気を出す必要に迫られた時はぜひ彼女においで願うといいですよ。

ファッションの座談会は話が核心にふれるまで、三回集まった。ついには一人一人の批評や研究にまで及んで、今後、例会はファッションابلになる——いや、なりそうもないなあ。

## 老人を介護して

石川 房子

できることなら、ここにサクセス・ストーリーが書ければいいと思っていたのだが――。重症の寝たきり老人をいかに手際よく看護しているかを。

母が病床についたとき、ひとりの人の自然の「いのち」とていねいにつき合ってみよう、そうすることによって今後どうなるかあまり予測をしないで、言い換えれば、自分たちのベースに病人を操作しないで、むしろひとりの人のいのちのたどりゆく道に、私たちがついていってみよう、そんな思いで姉妹でローテーションを組み、病床や看護用品の過不足、各家庭の予定などを緊密に連絡をとり合って都合をつけ合い、それぞれ家族の協力も得てそれは出発したのだから。

経済的な条件は、お互いに意見を出し合いガラス張りとし、母の貯金やめいめいからの醸金をプールして支出の窓口を一つにした。ともかくその点を明朗にして、余分な気遣いをしないですませることが、長い間息切れしないためには大切だと思ったからである。

一週間、十日、と日の経つうちに、失われた機能も年齢の割にはわずかながら回復の兆しが見えてくる。まだひとりで寝返りもできないし、スプーンを口へ運ぶこともできないが、手のとどくところに置くとティッシュペーパーを引き出すとか、目や鼻など不快なときは指さすようなしぐさをしはじめた。おしめを替えるとき、合図をすれば体を少し浮かすこともできるようになった。機能が少しでもとにもどることは、病人には希望であり、みとる者には介護の効果が見えるようで、その時それは共通のよろこびであった。

母は生来、完全主義と言えるような潔癖な一面を持っていて、ほんものとするやうでないものに対する勘が冴え、妥協のきらいな人だった。日常のくらしの中でそうした性癖は決してプラスとばかりは言えないが、それはともかくと

して不自由な身となるとそれが増幅されたように、付き添う者にいろいろと要求が絶えなかった。

傍にいつも誰かいてほしい。同じ部屋に寝起きし、目覚めているときはもちろん、眠っている時も付き添っているよう望んだ。大きい声も出ないし、言葉も聞きとりにくい。ブザーも手許から少しずれていては押せない。右半身は麻痺している。長い時間一人で放っておくことはしないのに、人影が見えないと非常に心細かった。介護する者にとっては、一日といえども家族や病人の食事を作らずに済む日はなく、日曜であってもおむつのいらぬ日もなく、汚れものの出ないはずはなく、また病人の体の清拭や洗顔、結髪をしないでよい日もない。

病人はひる間、浅く眠ることはあってもほとんど目覚めている。水を飲みたい、口を湿したい、口のまわりを拭きたい、目薬をつけてほしいやら、目のまわりを拭いてくれ、それ体を起してみてくれないか、倚りかかる角度が安定しないのでやりなおし、起き上がったら寒いからはんてんを着たい、背中のかゆいところをかくて、綿棒で鼻を拭いて、疲れたから横になろう、排尿だ、排便だ、今日は便が出そうでなかなか出ないから流腸を使ってほしい、衣服も汚れてしまった、さて投薬の時間が来た、足が痛むので揉んでほしい、踵（かかと）のふとんに当たるところが赤くなって痛い、軟こうを貼ってほしい、その絆創膏（ばんそうこう）がはがれたようだ、靴下をはいておさえてみようか、いや寢床の中で靴下をはくのは気持ちが悪くていやだ、少し姿勢や体の向きをかえてみよう、時間はいま何時か、窓が開いていない、いや開きすぎた、掛布団がうすくて寒い、これ以上かけては重い、シーツが寄って体に当たる、爪がのびてきたので切ってほしい、などなど。

昼間うとうとできるから夜眠りにくい。安定剤を服みたいと夜九時ころ与えようと間もなく眠るが、二時間ほど熟睡すると家人が床につくつかぬ十一時ころにきまって目覚めてしまう。目覚めてしまうと頻繁に排尿を訴え、そしてまた水をほしがる。傍の看護人はまとまった時間を眠る間なく薄明の空を迎えざるを得ない。明け方病人が眠れば、付き添う者もそれにつれて束の間深く眠り、また排尿の声に起こされる。朝ともなれば、夜の間に排泄物の処理や検温と、再び日課が始まる。そして病人の目覚めとともに私が「儀式」と呼んでいる洗顔、結髪、体の清拭が、きまった順序で、省略されることなく開始される。一息いれて上半身を起こし衣服を何とかとのえて、朝の食事をスプーンや吸いのみでゆっくり与え、一日がまた始まるのだ。

この極めて母好みのスケジュールは、手足がきかず、言語障害がありながら、わずかな伝達方法で短い期間に作り

上げられた。要求の容れられるまではそれを繰り返して、納得のゆくまではいつまでも訴えつづけたのである。

こうして病状の一応の落ち着きと、きめこまかな日課とが定着したとき、それらの合図を理解し看護できるのは、交替しながら続いている姉妹だけとなっていることに気づいた。もし看護メンバーの誰かに支障ができて手代わりをたのむとか、疲れた家族が一休みしたいようなとき、この方法をつづけている限り家族は本当に休息できそうもない。ある程度人手が変わっても誰でもできるように、仕事をパターン化してゆかなくてはなるまい。

とりあえず、姉と二人で朝からのきまだった仕事を書き出した。おおよその時刻と、その時にする仕事の内容や方法をである。かつて元気だったころの母は時計のように規則正しい生活をしていたが、それは病床でもつづけられた。目が見えるようになってからは時計を見えるところに置き、それに従った。

書き出してみると、それはなんともこまかいことが多くて、考えようによつてはどうでもいいと思われるような、たのんでもやってもらえそうもない、またたのみにくい事物が少なくなかった。つききりでこうしてみとられていた間はいいが、この張りつめた弦のような時期を長期にわたって維持できるとは限らない。仮に、ホームヘルパーのような立場の人に替わってもらうとすれば、基本的に生命を維持するのに必要な、たとえば食事とか排泄とか薬を服ませるとか、体を清潔にしておくとか、一般に誰にでも通用する仕事を、その介護する人のやりやすい方法でやってもいい、それでよし、とするほかないだろう。ということは身のまわりを人手にまかせるとなると、介護される側としては自分の好みや願いの大部分を一つ一つ押し殺して、生きるに必要な処置をほどこされることに黙って身をゆだね、周囲の人から「かわいいおとしより」と思われることに甘んずる以外になくなってしまふとも言える。いくぶんかの「自分流」を取り入れて扱ってもらえても、しよせんそれで気の済むほどにゆかないのは己むを得まい。

自分の考えがはっきりしていて、ひとの話すことはよく理解し、鋭い勘もはたらいっているのに、生活全般は人だのみせざるを得ないくらいともなれば、いかに抹殺してゆかねばならぬものの多いことか。「ひとを大切にする」ということは、こまかいことを言うようだが、それぞれの人の特徴やくせ（個性といってもいいけれど、個性と書くとかくせなどよりすぐれた天賦の才能のように思われやすい）、むしろ「まったくしょうがないなあ」とグチリつつ、つき合わざるを得ないその人らしさを含めて、ひとつひとついていねいに対処してゆくことかと思っていた。思っていたが実際にはやっぱり困難がある。容易なことではなかった。

『あじろ』一〇五・一〇六合併号付録

「均等法」  
「労基法改訂」  
省令・指針

一九八六年二月二十七日 労働省

# 省令

## 〇労働省令第二号

雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保等女子労働者の福祉の増進に関する法律（昭和四十七年法律第百十三号）第九條、第十條、第十四條、第二十一條及び第三十三條第二項の規定に基づき、雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保等女子労働者の福祉の増進に関する法律施行規則を次のように定める。

昭和六十一年一月二十七日

労働大臣 林 道

雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保等女子労働者の福祉の増進に関する法律施行規則

### （教育訓練）

第一条 雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保等女子労働者の福祉の増進に関する法律（以下「法」という。）第九條の労働省令で定める教育訓練は、次に掲げる教育訓練であつて、労働者の業務の遂行の過程外において行われるものとする。

一 新たに職業生活に入ることとなつた労働者を対象として行われる職業に必要な基礎的な能力を付与するための教育訓練

二 職務上の地位（業務を遂行するための最小単位の組織の長以上の職務上の地位をいう。以下この号において同じ。）が同等である労働

者又は新たに同等の職務上の地位に就くことが予定されている労働者を対象として行われる当該職務上の地位にある者として業務を遂行するために必要な能力を付与するための教育訓練

三 前二号に掲げるもののほか、対象となる労働者について職業上の資格、業務の種類等一定の要件を設けて行われる教育訓練であつて、当該労働者が従事し、又は従事することが予定されている業務を遂行するために直接必要な能力を付与するためのもの（福利厚生）

第二条 法第十条の労働省令で定める福利厚生の措置は、次のとおりとする。

一 生活資金、教育資金その他労働者の福祉の増進のために行われる資金の貸付け

二 労働者の福祉の増進のために定期的に行われる金銭の給付

三 労働者の資産形成のために行われる金銭の給付

四 住宅（専ら、配偶者のない者の用に供するために設けられたものを除く）の貸与（紛争の解決の援助）

第三条 法第十四條の労働省令で定める事業主の措置は、次のとおりとする。

一 法第九条の規定により差別的取扱ひをしてはならないこととされた教育訓練に関する措置

二 法第十条の規定により差別的取扱ひをしてはならないこととされた福利厚生の措置に関する

する措置

三 法第十一条に定める事項に関する措置

四 法第十二條第一項の規定に基づき、事業主が講ずるよう努めるべき措置についての指針が定められた場合にあつては、当該指針において定められた事項に関する措置

（委員会の名称）

第四条 機会均等調停委員会（以下「委員会」という。）の名称は、その置かれる都道府県婦人少年室の所在する都道府県の名を冠する。

（委員会の組織）

第五条 委員会に会長を置き、委員の互選により選任する。

2 会長は、会務を総理し、委員会を代表する。

3 会長に事故があるときは、あらかじめその指名する委員が、その職務を代理する。

（委員の任期等）

第六条 委員の任期は、二年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

3 委員の任期が満了したときは、当該委員は、後任の委員が任命されるまでその職務を行うものとする。

4 委員は、非常勤とする。

（会議）

第七条 委員会は、会長が招集する。

2 委員会は、委員二人以上が出席しなければ、会議を開き、議決をすることができない。

3 委員会の議事は、調停案を作成する場合を除



き、委員の過半数をもつて決する。

- 4 委員会の会議は、公開しない。  
(委員会の庶務)

第八条 委員会の庶務は、その置かれる都道府県婦人少年室において処理する。

(調停の申請)

第九条 法第十五条の調停(以下「調停」という。)の申請をしようとする者は、調停申請書(別記様式)を当該調停に係る紛争の関係当事者(女子労働者及び事業主をいう。以下同じ)である女子労働者に係る事業場の所在地を管轄する都道府県婦人少年室の長に提出しなければならない。

(調停の同意の確認)

第十条 都道府県婦人少年室長は、関係当事者の一方から調停の申請があつた場合において、当該紛争の解決のために必要があると認めるときは、他の関係当事者に対して調停を行うことに同意するか否かを確認するものとする。ただし、当該他の関係当事者が調停を行うことに同意している旨を明らかにする書面が当該調停の申請の際に提出されている場合には、この限りでない。

(調停開始の決定)

第十一条 都道府県婦人少年室長は、委員会に調停を行わせることとしたときは、遅滞なく、その旨を会長に通知するものとする。

2 都道府県婦人少年室長は、委員会に調停を行わせることとしたとき、又は行わせないこととしたときは、遅滞なく、調停を申請した関係当

事者及び調停を行うことに同意した関係当事者に対して、その旨を書面によつて通知するものとする。

(関係当事者からの事情聴取等)

第十二条 委員会は、当該事件の事実の調査のために必要があると認めるときは、関係当事者の出頭を求めることができる。

2 前項の規定により出頭を求められた者は、委員会に出頭しなければならない。この場合において、当該出頭を求められた者は、会長の許可を得て、補佐人を伴つて出頭することができる。

3 補佐人は、会長の許可を得て陳述を行うことができる。

4 関係当事者及び第一項の規定により委員会が指定をした者は、会長の許可を得て当該事件について意見を述べることができる。この場合において、これらの者は、会長の許可を得て他人に代理させることができる。

5 前項の規定により他人に代理させることについて会長の許可を得ようとする者は、代理人の氏名、住所及び職業を記載した書面に、代理権授与の事実を証明する書面を添付して、会長に提出しなければならない。

(文書等の提出)

第十三条 委員会は、当該事件の事実の調査のために必要があると認めるときは、関係当事者に対し、当該事件に関係のある文書又は物件の提出を求めることができる。

(事実の調査等)

第十四条 委員会は、必要があると認めるときは、当該事件の事実の調査を特定の委員又はその他の者に委嘱することができる。

(関係労使を代表する者の指名)

第十五条 委員会は、法第十八条の規定により意見を聴く必要があると認めるときは、当該委員会が置かれる都道府県婦人少年室の管轄区域内の主要な労働者団体又は事業主団体に対して、期限を付して関係労働者を代表する者又は関係事業主を代表する者の指名を求めるものとする。

2 前項の求めがあつた場合には、当該労働者団体又は事業主団体は、当該事件につき意見を述べる者の氏名及び住所を委員会に通知するものとする。

(調停案の受諾の勧告)

第十六条 調停案の作成は、全委員の一致をもつて行うものとする。

2 委員会は、調停案の受諾を勧告する場合に、関係当事者の双方に対し、受諾すべき期限を定めて行うものとする。

3 関係当事者は、調停案を受諾したときは、その旨を記載し、記名押印した書面を委員会に提出しなければならない。

(調停の打ち切り)

第十七条 委員会は、調停を継続することが適当でないと認めるときは、調停を打ち切ることが

できる。

2 委員会は、前項の規定により調停を打ち切つた場合には、理由を付して、その旨を関係当事者の双方に通知するものとする。

(権限の委任)

第十八条 法第三十三条第一項に規定する労働大臣の権限は、労働大臣が全国的に重要であると認めた事案に係るものを除き、事業主の事業場の所在地を管轄する都道府県婦人少年室の長が行うものとする。

附 則

この省令は、昭和六十一年四月一日から施行する。

○労働省令第三号

労働基準法(昭和二十二年法律第四十九号)第六十四条の二第二項及び第四項、第六十四条の三第一項第二号、第四号及び第五号、第六十四条の四、第六十四条の五第三項並びに第百十五条の二の規定に基づき、並びに同法を実施するため、女子労働基準規則を次のように定める。

昭和六十一年一月二十七日

労働大臣 林 道

別記様式(第9条関係) 調停申請書

氏名	住所	氏名又は名称	住所
女子労働者	(一)	氏名又は名称	(二)
事業主	(一)	住所	(二)
調停を求めらる事項及びその理由			
競争の経過			
その他参考となる事項			

年 月 日  
申請者 氏名又は名称  
婦人少年室長殿

女子労働基準規則

(決算のために必要な業務)

第一条 労働基準法(以下「法」という。)第六十四条の二第一項ただし書に規定する決算のために必要な計算、書類の作成等の業務とは、毎事業年度における営業損益及び財産状態を確定するために行う計算、書類の作成、物品のたな卸し及び価格の評価等の業務をいう。

(法第六十四条の二第二項の命令で定める週を単位とする期間等)

第二条 法第六十四条の二第二項の命令で定める週を単位とする期間は、四週間(法第八条第十三号又は第十四号の事業に従事する者については、二週間)とする。

2 法第六十四条の二第二項の六時間以上十二時間以下の範囲内で命令で定める時間は、六時間とする。

3 法第六十四条の二第二項の百五十時間以上三百時間以下の範囲内で命令で定める時間は、百五十時間とする。

4 法第六十四条の二第二項の命令で定める日数は、二日(法第八条第十三号又は第十四号の事業に従事する者については、一日)とする。

(労働者の業務の遂行を指揮命令する職務上の地位にある者等の範囲)

第三条 法第六十四条の二第四項の労働者の業務の遂行を指揮命令する職務上の地位にある者で命令で定めるものは、業務を遂行するための最小単位の組織の長である者又は職務上の地位がその者より上位にある者で、労働者の業務の遂

行を指揮命令するものとする。

2 法第六十四条の二第四項の専門的な知識又は技術を必要とする業務に従事する者で命令で定めるものは、次のとおりとする。

一 公認会計士

二 医師

三 齒科医師

四 獣医師

五 弁護士

六 一級建築士

七 薬剤師

八 不動産鑑定士

九 新商品若しくは新技術の研究開発又は人文科学若しくは自然科学に関する研究を主として行う施設において、高度の科学的な知識を必要とする研究の業務に従事する者

十 情報処理システム（電子計算機を使用して行う情報処理を目的として複数の要素が組み合わされた体系であつてプログラムの設計の基本となるものをいう。）の分析又は設計の業務に従事する者

十一 新聞又は出版の事業における記事の取材又は編集の業務に従事する者

十二 放送法（昭和二十五年法律第三十二号）第二条第四号に規定する放送番組又は有線ラジオ放送業務の運用の規正に関する法律（昭和二十六年法律第三十五号）第二条に規定する有線ラジオ放送若しくは有線テレビジョン放送法（昭和四十七年法律第百十四号）第二条第一項に規定する有線テレビジョン放送

の放送番組（以下「放送番組」と総称する。）の制作のための取材又は編集の業務に従事する者

十三 衣服、室内装飾、工業製品、広告等の新たなデザインの考案の業務に従事する者

十四 放送番組、映画等の制作の事業におけるプロデューサー又はディレクターの業務に従事する者

（女子の健康及び福祉に有害でない業務）

第四條 法第六十四条の三第一項第二号の命令で定める業務は、次のとおりとする。

一 航空機に乗り組むスチュワーデスの業務

二 女子のみを入居させる寄宿舎の管理人の業務

三 映画の制作の事業における撮影のための業務

四 放送番組の制作の業務

五 個人の生命、身体及び財産の保護並びに犯罪の予防、鎮圧及び捜査、被疑者の逮捕、交通の取締りその他公共の安全と秩序の維持のための警察の業務（警察官以外の警察職員が行う場合に於ては、女子の留置又は保護の業務及び少年の輔導の業務に限る。）

（業務の性質上深夜業が必要とされる業務等）

第五條 法第六十四条の三第一項第四号の命令で定める業務は、次のとおりとする。ただし、第一号から第三号までに掲げる業務については、缶詰、瓶詰等により長時間保存することができ

るようになされるものの製造の業務を除く。

一 そう菜製造業、弁当製造業、サンドイッチ

製造業、調理パン製造業又は料理品小売業におけるそう菜、弁当、サンドイッチ、調理パンその他品質が急速に変化しやすい料理品の製造の業務

二 めん類製造業における生めん類の製造の業務

三 水産練製品製造業におけるかまぼこ、ちくわ等の水産練製品の製造の業務

四 卸売市場法（昭和四十六年法律第三十五号）第二条第二項に規定する卸売市場における水産物の仕分け、配列、秤量、標示及び運搬の業務並びにこれらに附帯する業務

五 新聞小売業における新聞の配達業務

2 法第六十四条の三第一項第四号の命令で定める時間は、六時間とする。

（深夜業従事の申出に係る事業等）

第六條 法第六十四条の三第一項第五号の命令で定める事業は、一般乗用旅客自動車運送業とする。

使用者は、法第六十四条の三第一項第五号の規定による承認を受けようとする場合においては、当該承認の申請に係る労働者（以下「申出労働者」という。）が深夜業に従事することを希望する旨並びに深夜業に従事することを希望する時間及び期間を明らかにする申出労働者の署名又は記名押印のある書面を深夜業承認申請書（様式第一号）に添えて、当該事業場の所在地を管轄する労働基準監督署の長（以下「所轄労働基準監督署長」という。）に提出しなければならない。

製造業、調理パン製造業又は料理品小売業におけるそう菜、弁当、サンドイッチ、調理パンその他品質が急速に変化しやすい料理品の製造の業務

二 めん類製造業における生めん類の製造の業務

三 水産練製品製造業におけるかまぼこ、ちくわ等の水産練製品の製造の業務

四 卸売市場法（昭和四十六年法律第三十五号）第二条第二項に規定する卸売市場における水産物の仕分け、配列、秤量、標示及び運搬の業務並びにこれらに附帯する業務

五 新聞小売業における新聞の配達業務

2 法第六十四条の三第一項第四号の命令で定める時間は、六時間とする。

（深夜業従事の申出に係る事業等）

第六條 法第六十四条の三第一項第五号の命令で定める事業は、一般乗用旅客自動車運送業とする。

使用者は、法第六十四条の三第一項第五号の規定による承認を受けようとする場合においては、当該承認の申請に係る労働者（以下「申出労働者」という。）が深夜業に従事することを希望する旨並びに深夜業に従事することを希望する時間及び期間を明らかにする申出労働者の署名又は記名押印のある書面を深夜業承認申請書（様式第一号）に添えて、当該事業場の所在地を管轄する労働基準監督署の長（以下「所轄労働基準監督署長」という。）に提出しなければならない。

### 3

所轄労働基準監督署長は、前項の規定に基づき承認の申請について承認又は不承認の決定をしたときは、申請をした使用者にその旨を通知するとともに、不承認の決定をしたときは、申出労働者にその旨を通知しなければならない。

(交替制による深夜業の許可申請)

第七條 法第六十四条の三第二項において準用する法第六十一条第三項の規定による許可は、交替制による深夜業時間延長許可申請書(様式第二号)により、所轄労働基準監督署長から受けなければならない。

(臨時の必要のため坑内で行われる業務等)

第八條 法第六十四条の四の命令で定める業務は、次のとおりとする。

#### 一 医師の業務

#### 二 看護婦の業務

三 新聞又は出版の事業における取材の業務  
四 放送番組の制作のための取材の業務

### 2

法第六十四条の四の命令で定める妊産婦は、妊娠中の女子及び坑内で行われる前項各号に掲げる業務に従事しない旨を使用者に申し出た産後一年を経過しない女子とする。

(妊産婦の就業制限の業務の範囲等)

第九條 法第六十四条の五第一項の規定により妊娠中の女子を就かせてはならない業務は、次のとおりとする。

一次の表の上欄に掲げる年齢の区分に応じ、それぞれ同表の下欄に掲げる重量以上の重量物を取り扱う業務

年 齢	重量単位 キログラム	
	断続作業の場合	継続作業の場合
満十六歳未満	十二	八
満十六歳以上 満十八歳未満	二十五	十五
満十八歳以上	三十	二十

二 ボイラー(労働安全衛生法施行令(昭和四十七年政令第三百十八号)第一条第三号に規定するボイラーをいう。次号において同じ)の取扱いの業務

三 ボイラーの溶接の業務

四 つり上げ荷重が五トン以上のクレーン若しくはデリック又は制限荷重が五トン以上の揚

五 運転中の原動機又は原動機から中間軸までの動力伝導装置の掃除、給油、検査、修理又はベルトの掛換えの業務

六 クレーン、デリック又は揚貨装置の玉掛けの業務(二人以上の者によつて行う玉掛けの業務における補助作業の業務を除く。)

七 動力により駆動される土木建築用機械又は船舶荷扱用機械の運転の業務

八 直径が二十五センチメートル以上の丸のこ盤(横切用丸のこ盤及び自動送り装置を有する丸のこ盤を除く。又はこの車の直径が七十五センチメートル以上の帯のこ盤(自動送り装置を有する帯のこ盤を除く。))に木材を送給

#### する業務

九 操車場の構内における軌道車両の入換え、連結又は解放の業務

十 蒸気又は圧縮空気により駆動されるプレス機械又は鍛造機械を用いて行う金属加工の業務

十一 動力により駆動されるプレス機械、シヤールを用いて行う厚さが八ミリメートル以上の鋼板加工の業務

十二 岩石又は鉱物の破砕機又は粉砕機に材料を送給する業務

十三 土砂が崩壊するおそれのある場所又は深さが五メートル以上の地穴における業務

十四 高さが五メートル以上の場所、墜落に

ろにおける業務

十五 足場の組立て、解体又は変更の業務(地上又は床上における補助作業の業務を除く。)

十六 胸高直径が三十五センチメートル以上の立木の伐採の業務

十七 機械集材装置、運材索道等を用いて行う木材の搬出の業務

十八 鉛、水銀、クロム、砒素、黄りん、弗素、塩素、シアン化水素、アニリンその他これらに準ずる有害物のガス、蒸気又は粉じんを発散する場所における業務

十九 多量の高熱物体を取り扱う業務

二十 著しく暑熱な場所における業務

二十一 多量の低温物体を取り扱う業務

二十二 著しく寒冷な場所における業務

二十三 異常気圧下における業務

二十四 さく岩機、鉄打機等身体に著しい振動を与える機械器具を用いて行う業務

2 法第六十四条の五第一項の規定により産後一年を経過しない女子を就かせてはならない業務は、前項第一号から第十二号まで及び第十五号から第二十四号までに掲げる業務とする。ただし、同項第二号から第十二号まで、第十五号から第十七号まで及び第十九号から第二十三号までに掲げる業務については、産後一年を経過しない女子が当該業務に従事しない旨を使用者に申し出た場合に限る。

第十條 法第六十四条の五第二項の規定により同条第一項の規定を準用する者は、妊娠中の女子及び産後一年を経過しない女子以外の女子とし、これらの者を就かせてはならない業務は、前条第一項第一号及び第十八号に掲げる業務とする。

(婦人局調査員)

第十一條 法第一百条の二第三項に規定する婦人主管局長及びその指定する所属の職員を婦人局調査員という。

2 婦人局調査員の携帯すべき証票は、様式第三号による。

附則

(施行期日)

第一條 この省令は、昭和六十一年四月一日から施行する。

(経過措置)

第二條 附則第四条の規定による改正前の女子年少者労働基準規則(昭和二十九年労働省令第十三号)第十三条第二項の規定による証票は、第十一條第二項の規定による証票とみなす。

(労働基準法施行規則の一部改正)

第三條 労働基準法施行規則(昭和二十二年厚生省令第二十三号)の一部を次のように改正する。

第三十四条の三第一項中「又は女子である訓練生」を削り、「第六十三條」を「第六十二條」に改める。

別表第一の表就業制限及び就業禁止の根拠規定の欄中「女子年少者労働基準規則」を「年少者労働基準規則」に、「第六十四条」を「第六十三條」に改める。

様式第九号中

労働基準 (満18歳以上の男子)	
---------------------	--

を

労働基準  
(満18歳以上の者)

男 女 計


に改める。

(女子年少者労働基準規則の一部改正)

第四條 女子年少者労働基準規則の一部を次のように改正する。

題名を次のように改める。

年少者労働基準規則

第四條を次のように改める。

第四條 削除

第五條中「第六十二條第三項」を「第六十一條第三項」に改める。

第六條及び第七條を次のように改める。

第六條 削除

(重量物を取り扱う業務)

第七條 法第六十二條第一項の命令で定める重量物を取り扱う業務は、次の表の上欄に掲げる年齢及び性の区分に応じ、それぞれ同表の下欄に掲げる重量以上の重量物を取り扱う業務とする。

重量物を取り扱う業務は、次の表の上欄に掲げる年齢及び性の区分に応じ、それぞれ同表の下欄に掲げる重量以上の重量物を取り扱う業務とする。

年齢及び性		重量（単位 キログラム）	
		断続作業 の場合	継続作業 の場合
満十六歳未満	男	十二	八
	女	十五	十
満十六歳以上 満十八歳未満	男	二十五	十五
	女	三十	二十

第八条中「第六十三条第一項及び第二項」を「第六十二條第一項の命令で定める危険な業務及び同条第二項に「十八才」を「十八歳」に改め、「前条に規定するものの外」を削り、「左の」を「次の」に、「但し」を「ただし」に改め、「准看護婦」の下に「（同法第六十條第二項に規定する看護士又は准看護士を含む）」を加え、同条第一号から第三号までを次のように改める。

- 一 ボイラー（労働安全衛生法施行令（昭和四十七年政令第三百十八号）第一条第三号に規定するボイラー（同条第四号に規定する小型ボイラーを除く。）をいう。次号において同じ。）の取扱いの業務
  - 二 ボイラーの溶接の業務
  - 三 クレーン、デリック又は揚貨装置の運転の業務
- 第八条第四号中「フィルム」を「フィルム」

に改め、同条第五号中「積載能力」を「最大積載荷重が」に、「エレベーター」を「エレベーター」に、「高さ」を「高さが」に改め、同条第六号中「による」を「により駆動される」に、「積載能力」を「最大積載量が」に改め、同条第七号中「による巻上機」を「により駆動される巻上げ機」に、「エヤーホイス」を「エアホイス」に改め、同条第八号中「こえる」を「超える」に改め、同条第十号中「起重機」を「クレーン、デリック又は揚貨装置」に、「玉掛」を「玉掛け」に改め、同条第十一号中「消費量」を「最大消費量が」に、「リットル」を「リットル」に改め、同条第十二号中「による」を「により駆動される」に改め、同条第十四号中「直径」を「直径が」に、「丸のこ盤」を「丸のこ盤」に、「うける」を「受ける」に、「帯のこ盤」を「帯のこ盤」に改め、同条第十五号中「による」を「により駆動される」に改め、同条第十六号中「操車場」を「操車場の」に改め、同条第十七号中「すい道」を「すい道」に、「見透し距離」を「見通し距離が」に、「通行ひん繁」を「通行が頻繁」に改め、同条第十八号中「による」を「により駆動される」に、「用いる」を「用いて行う」に改め、同条第十九号中「による」を「により駆動される」に、「用いる厚さ」を「用いて行う厚さが」に改め、同条第二十号を次のように改める。

#### 二十 削除

第八条第二十二号中「破砕機」の下に「又は

粉砕機」を加え、同条第二十三号中「深さ」を「深さが」に改め、同条第二十四号中「箇所」を「場所」に、「おそれが」を「おそれの」に改め、同条第二十六号中「直径」を「胸高直径が」に改め、同条第二十七号中「木馬道、修ら、管流等による」を「機械集材装置、運材索道等を用いて行う」に改め、同条第二十九号中「昭和四十七年政令第三百十八号」を削り、同条第三十一号を次のように改める。

三十一 圧縮ガス又は液化ガスを製造し、又は用いる業務

第八条第三十二号中「ひ素、黄りん、ふつ化水素酸」を「砒素、黄りん、弗化水素酸」に、「青酸、苛性アルカリ」を「シアン化水素、水酸化ナトリウム、水酸化カリウム」に、「有害なもの」を「有害物」に改め、同条第三十三号中「クロム、ひ素、黄りん、ふつ素」を「クロム、砒素、黄りん、弗素」に、「青酸」を「シアニ化水素」に、「有害なもの」を「有害物」に改め、同条第三十四号中「じんあい」を「じんあい」に改め、同条第三十五号中「エックス線」を「エックス線」に改め、同条第三十九号中「さく岩機、びよう打機等」に、「受ける」を「与える機械器具を用いて行う」に改め、同条第四

十号中「ボイラを製造する場所等」を削り、同条第四十二号中「と殺」を「と殺」に改め、同条第四十六号中「の外」を「のほか」に改める。

第九条を削り、第十条中「労働基準監督署長」を「所轄労働基準監督署長」に、「第八条各号」を「前条各号」に、「の外、左の」を「のほか、次の」に改め、同条第一号中「軽わざ」を「軽業」に改め、同条第二号中「戸」を「戸々」に改め、同条第四号中「エレベーター」を「エレベーター」に改め、同条第五号中「の外」を「のほか」に改め、同条を第九条とする。

第十一条を削り、第十二条第一項中「第六十八条但書」を「第六十四条ただし書」に、「様式第五号」を「様式第四号」に改め、同条第二項中「第六十八条但書」を「第六十四条ただし書」に改め、同条を第十条とする。

第十三条を削る。

様式第一号中「様式第一号」を「様式第一号（第一条関係）」に改める。

様式第二号中「様式第二号」を「様式第二号（第三条関係）」に改める。

様式第三号を次のように改める。（略）

様式第四号を削り、様式第五号中「様式第五

号」を「様式第四号（第十条関係）」に改め、同様式を様式第四号とする。

様式第六号を削る。

第四百四十条第五号中「勤労婦人福祉法（昭和四十七年法律第百十三号）第十三条」を「雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保等女子労働者の福祉の増進に関する法律第三十条」に改める。

### 第五条

（神縄の復帰に伴う労働省令等の適用の特別措置等に関する省令の一部改正）（略）

（雇用保険法施行規則の一部改正）

第六条 雇用保険法施行規則（昭和五十年労働省令第三号）の一部を次のように改正する。

第百十五条中「勤労婦人に」を「女子労働者に」に、「勤労婦人福祉法」を「雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保等女子労働者の福祉の増進に関する法律」に、「第十一条」を「第二十八条第一項」に改める。

第百十六条中「勤労婦人」を「女子労働者」に改める。

第百四十条第五号中「勤労婦人福祉法（昭和四十七年法律第百十三号）第十三条」を「雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保等女子労働者の福祉の増進に関する法律第三十条」に改める。

### 様式第1号（第6条関係）

#### 深夜業承認申請書

母 親 の 姓 名	母 親 の 名 称	母 親 の 所 住 地
		(〒) 電話( )
申 出 労 働 者 に 関 する 事 項		
氏 名	従 事 する 業 務 の 種 類	住 所
	(〒)	電話( )
勤 務 の 態 様		
夜 間 業 に 従 事 する 時 間 及 び 休 息 時 間 (明 間)	時 間	時 間
年 月 日	使 用 者 職 氏 名	印

労働基準監督署長殿  
様考

1 「勤務の態様」欄は、申請に係る労働者（以下「申出労働者」という。）に行わせることとなる勤務について次の事項を具体的に記載すること。なお、当該欄に記載しきれない事項については、別紙に記載して添

様式第2号 (第7条関係)

- 様式第3号(第11条関係)

第 号  
婦人局調査員証票  
昭和 年 月 日交付  
官 職 氏 名  
勞働省婦人局印  
勞 働 省

交替制による深夜業時間延長許可申請書

事業の種類	事業の種類	事業の名称	事業の所在地
業務の種類	業務の種類及び周期	各交替番の始業及び終業の時刻	各交替番の員数
労働者総数	①のうち交替制上の女子労働者数	②のうち満18歳以上の女子労働者数	
①	②		
交替制を要する理由			

聚友國際材料有限公司

④ 氏 職 使用者

(様式第3号裏面)

勞働基準法(抄)

[illegible]

す、單の文で  
定するが、  
その指圖は  
その勞に於  
ては、國官  
又はその他  
の官にせし  
め、自ら下  
級をせしめ  
たるは、所  
管吏をして  
之を行はし  
むるは、高  
長は、主官  
人吏若し、  
婦人、所屬  
官吏を閱覽  
する。書き  
ける。

主として婦人に関する。第101条及び第105条の規定は、吏官の施用する規定の所定の範囲内である。又は、その指特定の女子中絶法管の法律で行う調査。

寄薄して、事務者が行ふ事業、施設、官物監督、建築指導、基所出の労働、他の労働者に對する労働者及び賃金。

前項の場合において、労働基準監督官はその身分を証明する証票を携帯しなければならぬ。

第120条 次の各号の1に該当する者は、  
10万円以下の罰金に処する。



4. 第101条(第100条の2第3項において、若し拒問の母娘又は子に對しては妨げ無効を主張する旨を提出した者)に準じて運用する場合とは含み、人史のその程度又は若くは妨げ無効を主張する旨を提出した者の提呈した書類に附屬の記載をした者

第11条 法律第100条の2第3項に規定する所属の職員を婦人局長調査員とする。

女子労働基準規則(抄)

2. 婦人局調査員の携帯すべき証票は、様式第8号による。

○労働省告示第四号  
雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保等女子労働者の福祉の増進に関する法律（昭和四十七年法律第百十三号）第十二条第一項の規定に基づき、事業主が講ずるよう努めるべき措置についての指針を次のように定め、昭和六十一年四月一日から適用することとしたので、同条第二項において準用する同法第六条第五項の規定に基づき、告示する。

昭和六十一年一月二十七日

労働大臣 林 道

事業主が請ずるよう努めるべき措置についての指針

1 この指針は、雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保を促進するために、企業の雇用管理の実態、労働基準法(昭和22年法律第49号)における女子労働者の労働条件に関する特別の規定の現状、女子労働者の平均的な就業年数等を考慮し、事業主が講ずるよう努めるべき措置として、具体的に明らかにする必要があると認められるものについて定めたものである。

2 事業主が講ずるよう努めるべき措置

(1) 勤業及び採用に関し、次に掲げる措置を講ずるよう努めること。

募集又は採用に当たつて、募集・採用区分（労働者、資格、雇用形態、就業形態等の区分をいう。ロにおいて同じ。）ごとに、女子であることを理由として募集又は採用の対象から女子を排除しないこと。  
(排除していると思われる例)

- ① 一定の職種について募集又は採用の対象を男子のみとすること。
- ② 大学卒業者等一定の応募資格を定めて募集し、又は採用する場合において、その対象を男子のみとすること。
- ③ 将来の処遇についてあらかじめ区分を設けて労働者を募集し、又は採用する場合において、その対象を男子のみとすること。

④ 常時雇用する労働者を募集し、又は採用する場合において、その対象を男子のみとすること。

⑤ 募集又は採用に当たつて、男子を表わす職種の名称を用い、又は「男子歓迎」、「男子向きの職種」等の表示を行うことと（女子を排除しないことが明らかである場合を除く。）。

口 募集又は採用に当たつて、年齢、婚姻の有無、通勤の状況その他の条件を付す場合においては、同一の募集・採用区分の男子と比較して女子に不利なものとならないこと。

(不利なものとしていると認められる例)

① 応募することができる年齢の上限を設けて募集し、又は採用する場合において、女子が応募することができる年齢を男子に比して低く設定すること。

② 女子についてのみ、未婚者であることを条件とすること。

③ 女子についてのみ、自宅から通勤することを条件とすること。

④ 「女子は未婚者優先」、「女子は自宅通  
勤者優先」等の一定の事情にある女子に  
ついて不利に取り扱う旨の表示を行うこ  
と。

(2) 配置に関し、次に掲げる措置を講ずるよう  
に努めること。  
イ 一定の職階への配置に当たつて、女子で

あることを理由として、その対象から女子労働者を排除しないこと。

(排除していると認められる例)

① 営業の職務への配置に当たつて、その対象を男子労働者のみとすること。

② 基幹的な業務を内容とする職務への配置に当たつて、その対象を男子労働者のみとすること。

ρ 婚姻したこと、一定の年齢に達したこと等を理由として、女子労働者についてのみ、不利益な配置転換をしないこと。

(不利益な配置転換をしていると認められる例)

① 女子労働者についてのみ、婚姻を理由として、通勤不便な事業場に配置転換をすること。

② 一定の年齢以上の女子労働者のみを、合理化のための出向の対象とすること。

(3) 昇進に関し、次に掲げる措置を講ずるよう努めること。

イ 昇進に当たつて、女子であることを理由として、その対象から女子労働者を排除しないこと。

(排除していると認められる例)

① 女子労働者に対して、役職への昇進の機会を与えないこと。

② 女子労働者については、一定の役職までしか昇進できないこととすること。

ρ 昇進に当たつて、出勤率、勤続年数等一定の客観的条件を付す場合においては、男子労働者と比較して女子労働者に不利なも

のしないこと。

(不利なものとしてしていると認められる例)

① 男子労働者については一定の勤続年数を経た場合に昇進させるが、女子労働者については当該一定の勤続年数を超える年数を経なければ昇進できないこととすること。

② 男子労働者については出勤率が一定の率以上である場合に昇格させるが、女子労働者については出勤率が当該一定の率以上であることに加えて一定の勤続年数を経なければ昇格できないこととすること。

ハ 昇進のための試験を実施する場合においては、男子労働者と比較して女子労働者に不利な取扱いをしないこと。

(不利な取扱いをしていると認められる例)

① 一定の役職に昇進するための試験の受験資格を、女子労働者に対して与えないこと。

② 一定の役職に昇進するための試験の受験資格を、男子労働者には一定の勤続年数を経た場合に与えるが、女子労働者には当該一定の勤続年数を超える年数を経なければ与えないこと。

8 適用除外

次のいずれかに該当する場合については、この指針を適用しない。

(1) 次に掲げる職業に従事する労働者に係る場合

① 芸術・芸能の分野における表現の真実性等の要請から男子に従事させることが必要である職業

② 守衛、警備員等防犯上の要請から男子に従事させることが必要である職業

③ ①及び②に掲げる職業のほか、業務の性質上男子に従事させることについてこれらの職業と同程度の必要性があると認められる職業

(2) 労働基準法第64条の2から第64条の4まで又は第64条の5第2項の規定により女子の労働が制限され、又は禁止されていることから、通常の業務を遂行するために、女子に対して男子と均等な機会を与えること又は女子労働者に対して男子労働者と均等な取扱いをすることが困難であると認められる場合

(3) 風俗、風習等の相違により女子が能力を発揮し難い海外での勤務が必要な場合その他特別の事情により女子に対して男子と均等な機会を与えること又は女子労働者に対して男子労働者と均等な取扱いをすることが困難であると認められる場合

これらの要求をいつも叶えてやるわけにゆかないなら、このうち何を満たし、何を瑣末（さまつ）なこととして切り捨てたらよいか。介護者のその時の気分とか余力があれば、その時にというわけにもゆかず、懇願する声を振り切ることができなくて忙殺されてしまうのだ。それにしても、気分次第にせよ、しかたがないといいながらにせよ、とても無理だからと論（さと）すにせよ、あるいは嘆いてみたり怒られてみたり、そうした人間的なコミュニケーションがあり、面と向かってその人ひとりのためのやりとりのあることが、病人には生きてゆく糧（かて）になつていくようなところがある。不思議なもので、あてもない、こうでもないといういろいろ言われて、介護する者が疲労困憊（こんぱい）するような時は案外、病人のほうは調子がよく、逆にみとる者たちに元気がもどってくるころは、病状のよくないことが多い。周囲の人びとから精気を吸収しているのではないだろうか、奇妙な力関係のはたらきを感じてしまう。

世俗の時間とは無関係に、悠久の時の流れの中に生きていような人と、定時に通学・通勤をする人、日常のきまつた仕事をかかえている人が同じ屋根の下で「こみ」のくらしをつづけてゆくには調整がむづかしい。どちらの人を主にするか、どちらも軽視できず平等の目くばりをしなければならぬからである。くらしのリズムのずれが、精神的な齟齬（そご）にまでおよぶのは早い。本来ならそんな時にこそ力を合わせるのが家族だった。かつてはそうであったかもしれないが、いま家族の中にそういう機能はうすくなり、結びつきももろくなつてきているのが実状である。お互いにギクシャクした思いを抱かないよう、家族のめいめいが些細な言動にもいつも気をつけたいのだが、家族が理解を示し手助けしてくれていても、この際、水のようにその時の容器の形や高低によつて柔軟に姿を調整するクッション役、さらに空港の管制塔のような役は、はたして家庭の中に必要ないだろうか。私の場合に限っていえば、もし誰かそうした役目を負う人がいなければ、何かよくない事態が生じそうな予感がして、それがおそろしくて緩衝地帯になろうとつとめてしまう。よくない事態といつても起こつてみなければわからないことだけれど、例えばお互いの心に焦燥感や荒廃、不満感が芽生えるとか、病人も満たされぬ思いから老人性癡呆になるのではないかなどといったおそれである。

老人が精神的に比較的安定し、周囲の者に信頼感を抱いていれば、たとえ病状に変化があつても精神的荒廃からくる悪化は防ぐことができるのではないかと思つたのである。（続く）

# “均等法元年”へスタート！ 省令・指針・ついに公布

★とうとう出ましたね、省令、指針。

★なんとも複雑な気持ちだけど、最後にかなり巻き返した、という感じはしますね。

★非工業的事業の時間外労働が、省令案では四週につき三十二時間、一年間二百時間だったのが、四週につき二十四時間、一年間百五十時間になりましたものね。

★旅行業や郵便業務の深夜業も禁止例外からはずされたし……。

★寒風の吹きすさぶ中、労働省前で座り込みデモを続けたり、全国からの署名・陳情・請願は引きもきらず、総評をはじめとする労組やあらゆる女の組織の熱意で、やっとこれだけは巻き返した……。涙が出そうなかんじ。

★労働省の女性職員も婦少審の女性委員も、みんな頑張ったと思います。でも、これから大変ですよ。

★ほんとに大変。年間労働時間が、日本は工業化諸国に比べると一年でちょうど二か月分くらい長い、名だたる長時間労働国なのに、労働時間短縮どころか男の長時間労働に女を合わせた。女にとっては生活破壊に直結しま

すものね。

★ただ救いは、四月一日から直ちに全企業で実施できるわけじゃないこと。企業と労働組合で労働協定を結び直さなければならぬんですよ。

★そうです。この条文は、「時間外労働が必要な場合には、今後は一定の条件の労働者には例外的に認められる」としているだけで、

「すべての労働者は時間外労働をしろ」と言っているわけではもちろんないし、時間外労働のためには、労使間の労働協約を結び直し、その協約の中に女子の労働条件を明記しなければならぬわけでしょう。『女も必ず時間外労働をするのだ』という言い方でごまかされないように気をつけたほうがいいと思います。

★今まで女性には就労するときに労働条件をあまり気にしなかったり、労組の労働協約など自分とは関係ナイと思ってた人が多かったけど、これからは、自分の権利も義務もきちんと確認しなければ、ということですね。

それにしても、一方の、募集・採用から定年・退職までの「均等」の保障は、四月一日

から即実行しなければならない。各企業が太あわてしているのも無理もないですよ。

★「男子正社員、女子パート」なんて求人はどうでなくなる。

★ただ不安なのは、「女子のみ」の求人が許されていることですね。「補助職・女子のみ」はいいなんて！

★これはよほど気をつけないと心配ですね。★それと、管理職の時間外。専門職のほうは一応十四職種に限定されたけど、

「管理職」の範囲が実にあいまいでしょう。『一人以上の部下』を指揮命令する立場なら『管理職』。★一応『係長以上』という労働省の説明ですけど、部下が一人の『係長』にさせられる心配もある。

★もっとも、これはもちろん辞退できるわけでしょう。

★辞退できるけど、給料や昇進で必ず差をつけられるでしょうし、万年お茶ぐみ、コピーに固定化される心配も……。

★採用時点から『出世コース』と『補助職コース』に振り分けられるのでは、という危惧

がいよいよ現実化するわけですね。

★こうなると、「子どもを産む人」と「産まない人」に分かれてしまうのでは……。

☆今でも、エリートコースの女性の中には、「子どもは要らない」という傾向がふえてますね。いよいよふえるのでは。

★これは大きく考えると、決して女だけの問題じゃない。ますます「能力主義・効率主義」の社会になりそう。

☆今後は「新身分制度」が定着するだろうと言われてますよね。学歴・家系・出身などが今まで以上に問題になるかも……。

★「男女均等法」だけが必要なのか、「人間平等法」が必要ではないかと、私たちは言い続けてきたけど。

☆今まで女の問題には知らんぷりだった一部の労組も、今度はさすがに真剣ですね。

★これからの山場は、労基法「改正」ということです。

☆労基研の報告では、でも「改正」どころか、「悪の固定化」。これからの闘いが大変ですね。

★女・男を問わず労働戦線の大共闘がないと……。

☆あの長い長い闘いを考えると、敗北感、挫

折感が大きいけど、エポック・メイキングな一面もありますね、しかし……。

☆それはありますよ。これからは何かあれば「均等法」「差別撤廃条約」を持ち出せるわけだから。

★社会通念は否応なく変わっていくでしょうね。マスメディアなどの女性の採用はふえますかしら。

☆ことしは朝日が女性社員を創業以来はじめて大量採用した（新卒二十人採用）そうだし、「同じ試験を受ければ女性のほうが必ず成績がいい」ことは、どこの企業でも認めているし、今までのように女性の成績表に係数をかけて振り落とすなんてことは、もうできないでしょうよ。

★女の宿直室をつくったところもあるそうですね。

☆現実には本当に泊まりになるようなことはそうないだろう。それよりは、今までいくら働いても「労基法違反だから」という理由でタダ働きにさせられていた部分が有給化したたり、「同一労働」という「仲間意識」ができる意義が大きいのでは、と、あるマスメディアの女性記者は話していました。

★男性社員で、これで大っぴらに女の人をど

んどん入れられる、女性が入ったほうが活性化していい、と喜んでいる人もいます。

☆「共学」の道が開けて女の優秀性が立証されたように、これからは「共働」の場で女の働きが実証されていくでしょうね。

★ただ、無気味な風潮もありますね。いま男たちは労働協約以上の残業をして、その分は「無償の労働」になっている例がたいへん多い。

☆悪く考えると、女もそれに巻き込まれる心配があるけど、残業が女にも関係のある問題になってきて、必要以上の残業は絶対しないという女たちの強い態度が貫かれれば、逆に男の働き方が改めて見直される、歯止めになる、ということもありうると思うけど。

★不安要因は数えあげればキリがないけど、キチッと自己確認しながらやるっきゃない。

☆ますます女同士助け合ってね。

★そして、条文の問題の場所を変えるように働きかける。

☆それに耳を貸さない政党には投票しないこと！

★参院選も近づいたし、各政党に積極的に働きかけましょうよ。

# 基準法に基づく省令及び指針一覧

## 女子労働基準規則

- ・指揮命令者の範囲  
業務を遂行するための最小単位の組織の長以上の者で労働者の業務の遂行を指揮命令するもの
- ・専門業務従事者の範囲  
公認会計士、医師、歯科医師、獣医師、弁護士、一級建築士、薬剤師、不動産鑑定士、研究者、システムエンジニア、新聞記者、編集者、放送記者、デザイナー、プロデューサー、ディレクター
- ・非工業的業種の時間外・休日労働の上限  
4週24時間、年間150時間、休日労働は4週1日まで  
ただし、保健・衛生の事業及び接客・娯楽の事業においては、2週12時間、年間150時間、休日労働は禁止

- ・健康・福祉に有害でない業務  
スチューデントの業務、寄宿舎の管理人の業務、映画・放送番組の制作の業務、警察の業務
- ・業務の性質上深夜業が必要な業務（1日の労働時間が6時間以内のもの）  
そう菜・弁当等の製造の業務、生めん類の製造の業務、水産練製品の製造の業務、卸売市場の業務、新聞配達業務
- ・労働者の申出に基づき使用者が行政官庁の承認を受けた者  
一般乗用旅客自動車運送業（ハイヤー・タクシー業）に限る。

- ・臨時の必要のため坑内で行われる業務  
医師及び看護婦の業務、取材の業務
- ・一定の妊産婦の範囲  
妊娠及び坑内労働に従事しない旨申し出た産婦

- ・妊婦の就業制限業務  
現行の就業制限業務についてはほぼ制限を存続
- ・産婦の就業制限業務
  - ・申し出た産婦については、ほぼ現行の就業制限業務を存続
  - ・一般の産婦については、重量物を取り扱う業務、有害ガスを発散する場所における業務、振動業務について就業を制限
- ・妊産婦以外の女子の就業が制限される業務  
重量物を取り扱う業務及び有害ガスを発散する場所における業務

—

—

—

# 男女雇用機会均等法及び改訂労働

現行労働基準法		改訂労働基準法	
時間外・休日労働	1日2時間、1週6時間、1年150時間以内に制限 休日労働の禁止	指揮命令者及び専門業務従事者	現行規制を廃止
		工業的業種	時間外労働については、現行規制のうち1日2時間の制限を廃止
		その他の者 非工業的業種	<ul style="list-style-type: none"> <li>時間外労働については、4週以内の期間について、1週当たり8～12時間（例えば期間を4週とする場合には24～48時間）、1年当たり150～300時間の範囲内で命令で定める時間以内に制限</li> <li>休日労働については、4週につき命令で定める日数以上の休日労働を禁止</li> </ul>
深夜業	禁止 ただし一部例外あり <ul style="list-style-type: none"> <li>保健衛生の事業</li> <li>接客娯楽の事業</li> <li>電話の事業</li> <li>健康・福祉に有害でない業務（スチュアーデス等）</li> </ul>	指揮命令者及び専門業務従事者、業務の性質上深夜業が必要な業務に従事する労働時間の短い者、労働者の申出に基づき使用者が行政官庁の承認を受けた者等	現行規制を廃止
		その他の者	現行規制を存続
坑内労働	禁止	臨時の必要のため坑内で行われる一定の業務に従事する者（一定の妊産婦を除く）	現行規制を廃止
		その他の者	現行規制を存続
危険有害業務	一定の危険有害業務について就業を禁止	妊産婦	母性保護の観点から現行規制を見直し、妊娠、出産、哺育等に有害な一定の業務について就業禁止
		妊産婦以外の女子	現行規制を廃止。ただし、妊娠又は出産に係る機能に有害である一定の業務について就業禁止
産前産後等	産前・産後それぞれ6週間の休業等	<ul style="list-style-type: none"> <li>多胎妊娠の場合の産前休業の期間は10週間</li> <li>産後休業の期間は8週間</li> </ul>	
		妊産婦の請求により時間外労働、休日労働、深夜業は禁止	
生理休暇	生理日の就業が著しく困難な女子又は生理に有害な業務に従事する女子の請求により就業禁止	生理日の就業が著しく困難な女子に対する措置として、そのような女子が休暇を請求した時は生理日の就業禁止	
帰郷旅費	解雇の日から14日以内に帰郷する場合において必要な旅費	廃止	

男女雇用機会均等法	施行規則(又は指針)
<p>1 雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保のための措置</p> <p>(1) 事業主の講ずべき措置</p> <p>イ 募集、採用 男女均等な機会を与える努力義務 (具体的な努力目標は、指針で定める)</p> <p>ロ 配置 男女均等な取扱いをする努力義務 (具体的な努力目標は、指針で定める)</p> <p>ハ 昇進 男女均等な取扱いをする努力義務 (具体的な努力目標は、指針で定める)</p> <p>二 教育訓練 労働省令で定める基礎的な教育訓練について男女差別的取扱いの禁止(罰則なし)</p> <p>ホ 福利厚生 住宅資金の貸付けその他労働省令で定める福利厚生の措置について男女差別的取扱いの禁止(罰則なし)</p> <p>ヘ 定年、退職、解雇 男女差別的取扱いの禁止(罰則なし)</p> <p>(2) 実効担保の措置</p> <p>イ 企業内における労使による自主的解決</p> <p>ロ 都道府県婦人少年室長による紛争解決の援助</p> <p>ハ 各都道府県婦人少年室に設置する機会均等調停委員会による調停</p> <p>ニ 労働大臣又は都道府県婦人少年室長の報告の徴収、助言、指導又は勧告</p> <p>2 女子労働者の就業に関する援助の措置等</p> <p>(1) 再雇用特別措置等 事業主による再雇用特別措置の実施(努力義務規定)及びその普及のための国の援助</p> <p>(2) 育児休業 現行の事業主による制度実施の努力義務に加え、普及のための国の援助</p>	<p>指 針</p> <p>(改善の努力が求められる事項)(募集・採用)</p> <p>① 募集・採用の対象からの女子の排除(男子のみの募集・採用等)</p> <p>② 女子に不利な募集採用条件の設定(女子のみの自宅通勤を条件とすること等)</p> <p>(改善の努力が求められる事項)(配置)</p> <p>① 一定の職務への配置の対象からの女子の排除(営業職への配置を男子のみとすること等)</p> <p>② 女子労働者についてのみの不利益配転(女子のみに婚姻を理由とした遠隔地への配転を行うこと等)</p> <p>(改善の努力が求められる事項)(昇進)</p> <p>① 昇進の対象からの女子の排除(女子に昇進の機会を与えないこと等)</p> <p>② 女子に不利な昇進のための条件の設定(昇進に要する勤続年数を男子より長くすること等)</p> <p>③ 昇進試験における女子に不利な取扱い(女子に昇進試験の受験資格を与えないこと等)</p> <p>(指針の例外)</p> <p>① 業務の性質によるもの(俳優、警備員、神父等)</p> <p>② 労働基準法上の規制によるもの</p> <p>③ その他特別の事情によるもの</p> <p>(差別的取扱いが禁止される教育訓練)</p> <p>① 新入社員に対する職業に必要な基礎的な教育訓練</p> <p>② 役職者に対する役職者として必要な教育訓練</p> <p>③ その他対象者に要件を設けて行う教育訓練で業務の遂行に直接必要なもの</p> <p>(差別的取扱いが禁止される福利厚生の措置)</p> <p>① 各種資金の貸付け</p> <p>② 各種金銭の給付</p> <p>③ 住宅の貸与(独身寮を除く)</p> <p>(援助の対象の範囲) 禁止規定に係る措置及び努力義務規定に係る措置(指針に掲げられたものに限る)に関する紛争</p> <p>(調停手続き等につき細則を規定)</p> <p>(権限の委任) 全国的に重要な事案は労働大臣、その他は事業場の所在地を管轄する都道府県婦人少年室長</p>



均等法・労基法改訂、省令・指針「案」と今回の決定の相違点

月刊一〇三号掲載の女子労働基準規則案要綱のうち、次の箇所が変わりました。

十九ページ一、非工業的事業における時間外及び休日の労働の一行目、「四週間に就いて三十二時間」が、「二十四時間」、「一年間について二百時間」が「百五十時間」に。

二十ページ、三、深夜業の禁止の例外となる業務の

(一) 女子の健康及び福祉に有害でない業務の木（旅程管理業務）とト（郵便事業における郵便物の区分、運搬等の業務）を、それぞれ全面削除。

(二) 業務の性質上深夜業が必要とされる業務等のイ（そう菜製造業等）の最後に、（但し缶づめ、びんづめにより長期保存することができるものの製造は除く）をつけ加える。

また、二十三ページ、均等法施行規則案要綱のうち、

一 教育訓練の(三)、「当該対象者が従事し、又は従事することとなる業務の遂行に必要な能力を付与するためのもの」の傍点部分が「ことが予定されている」に、

また、二、福利厚生のうち、二十四ページの四、住宅の貸与の次に、「但し、専ら配偶者のない者の用に供するために設けられたものを除く」を加える。

同ページ、三、都道府県婦人少年室長の紛争の解決の援助の(二)、「当該指定に定められた措置」を、「当該指針に定められた事項に関する措置」に改める。

同ページ、四、機会均等調停委員会の(一)のイ、「委員の任期は二年とするものとし、再任を妨げないものとする」とを、「再任されることのできる。但し補欠の委員の任期は前任者の残任期間とする」に改める。

同ページ、同(二)のロ、「関係当事者の一方から「調停申請書が提出された場合」を、「調停申請があった場合」に改める。

二十六ページ、事業主が講ずるように努めるべき措置についての指針の三、適用除外の(三)女子労働者に対して男子労働者と均等な取扱いをするものが「適当でない」と認められる場合」を「困難であると認められる場合」に改める。

TVから

●食卓を変えた男たち

NHK「おはよう列島朝いちばん」で三日連続放映。登場した男とは、①即席ラーメンの安藤百福②電気がまの山田

正吾③冷凍すり身の西谷喬雄の三氏。六十代後半から七十代ながら、いずれもカクシヤクたる現役。ラーメンの屋台を引いていた安藤さんは、今は億万長者だが、毎日市場で安い生鮮食品を買い、自ら調理。山田さんは、研究部門にバカにされながら、女房がほしいというものをつくったと話す。③の西谷さんは行方知れず。やっと突きとめた家は長屋ふう。「あの人、朝早くから毎日出かけますけど、何してるんでしょうね、きつとり身でししょうけど」と、人のよさそうな老夫婦が語る。探りあてた工場では今も汗と油にまみれて開発一途、お金とはまるで縁がなさそう。スケツウダラを冷凍すり身にする事によって、人造カニやエビが可能になったと聞くと、なるほど食卓を変えた人々に選ばれた理由がわかる。男の立身出世とその妻のあり方まで深く考えさせられた。「それにしても浮いた主婦の時間は何に……」との声が心に沁みた。

# 名古屋の女たち

あけまして

おめでとうございす

一九八六年元旦

「幻の塔ーハウスキパー熊沢光子の場合」

BOC出版部 一六〇円

「女の地平線」風媒社 一六〇円

読書会の講師もいきいます。よろしく。

山下智恵子

新年のあようこ

申し上げます

六一年元旦

門 玲子

昨年五月の「江馬組香」再版のことには多くの席を頂きありがとうございました。なごり感謝にお知らせ頂ければうれしく思います。

琴々音

子どものありのままの姿と受け入れていきますか

自分を語っていきますか

素敵を生かしますか

初めのお

願う心

親業訓練協会  
インストラクター

千四七〇〇一

愛知県東郷町和合寺五二二五

澤田 孝子

千四六四

〇五六一三一八四三三五

名古屋市千種区東山元町五ノ八

横田美佐子

〇五三一七八一三九二四

# ことしもやります！

グローバルな視点で女を考える女の新聞・ミス・ジャパン

自分だけの言葉  
暮らしの中の発見  
喜びや悩み  
人生のさまざまな場面を文章で表現し  
一番の本にまとめてみてはいかがでしょう  
読者から作者へ  
新しい視点で社会を見つめる  
きっかけになるかもしれません  
そんな積極女性をミス・ジャパンは応援します  
あなた自身の本を作ってみませんか  
原稿整理からレイアウト、装丁、校正、印刷まで  
ミス・ジャパンが編集発行する  
人間が社が制作します



謹んで新春のお慶びを

申し上げます

本年もよろしくお願い致します

昭和六十一年 元旦

家事代行

株式会社 ダイコーカービス

代表取締役 諏訪部 美和子

〇五八六一四五一〇三二五

賀

正

女性の能力活用をめざして各種  
業務をお引き受けしています。

今年もがんばりたいと思いますので

どうかよろしくお願いします。

1986年元旦

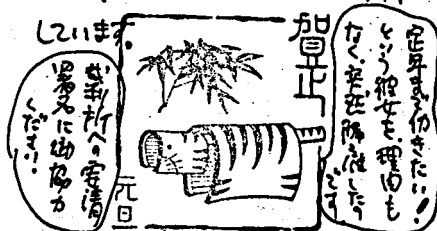
東海 BOC

奥村 和子 桜井 京子 高橋 ますみ  
名古屋市中区栄一丁目7-26 名急ビル 801号

電話番号が変更しましたので、お手元の番号を  
お改めくださるようお願いいたします

電話(新) 052-251-9064番

裁判を始めて既に8年の  
歳月が過ぎました。  
今夏にも決着ではないかという状況  
で4年が経過であり、気分を新たに  
していきます。

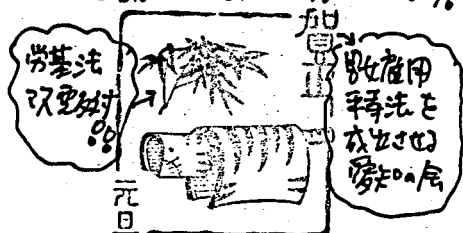


高裁で勝訴をめぐり、今年に争い  
つとむに、留様の申し立てを  
お願ひします。

名古屋市中区栄一丁目7-26 名急ビル 801号  
奥村 和子 桜井 京子 高橋 ますみ

# 尾張名古屋は女で持つ

今年の4月からは、新しいグループに「衣がえ」し、3/きつつき、職場においては男女差別をなくすために、活動していきたいと考えています。



「成立させの会」(総称)当時同様、あいらを始める諸団体・グループ、ネットワークを組んで、行動していきます。今年もよろしく。

## 新年

おめでとうございます

楽しいひとときに語らうに  
ぜひご利用をお願いします。  
1986年元旦

## Poppy

052-241-6295

2層目の層を迎えます。  
なんとカ街に根をはりました。今年はずっとが人は「らなけいば」！  
年々バック回収に、ビニール袋、進放に、アルミ回収に、リサイクルショップではありません、安全で新鮮でおいしい食品・天然セッケンをお店です。一語に小情報をお届けします。(長谷川あき)  
1986.1.1



共同購入の店

## あい

名古屋市面区城町125 052(502)9424

—会い★eye★愛—

おめでとうございます

平安殿では、特に女性の方に喜んでいただけますよう、サービス、演出、BGM、設備などに、心から尽くすことをモットーと致しております。女性グループの会合には、特別ご優待がございます。どうぞお気軽にお申し込み下さいませ。

御婚礼・御宴会・御集會

総合結婚式場 **平安殿**

☎(052)251-0811 今原淑郎

# 続刊の方向でさらに検討を

## ——緊急運営会議で話し合われたこと——

一月二十五二十六日、東京勤労福祉会館で開かれた緊急運営会議。出席者は札幌、仙台、柏、東海、山口、九州、事務局からの十一名とオブザーバー七名の十八名。

冒頭、斉藤千代さんから、「健康状態がきわめて悪い。ナイロビ号は、国際婦人年、世界女性会議とは何なのかわかる本にした、と、残るエネルギーを傾けた。しかし思えば立派になり過ぎた『あごろ』。期待されるあごろV像に応えようと、物心ともに無理を重ねてきたのではない。満足できる仕事ができないのに仕事を続けることは読者への裏切りになる。また、予算措置のない中で作業は、関わる人びとをつぶしていくことになる。自分はこれ以上編集はできない。あごろVの第一期を国連婦人の十年としても終え、これから第二期としてはどうか。創刊時のような運動の原点に戻って会員一人ひとりの顔の見えるようなあごろVをもう

一度探りたいと思う」との問題提起があり、会議に移った。

まず、ナイロビ号編集の経過報告があり、編集に携わったみなさんが二か月半にわたって長時間・重労働に耐え、家庭生活を犠牲にし、予算措置がなかったため最悪の場合タダ働きになることを覚悟で作業を終えられた経過がなまなましく伝えられ、予算に基づく存廃論を展開してほしいという強い要望が出された。

続く仮決算報告では、BOCが負担したまま支払われていない額が昨年一年だけで百五十万円以上にのぼること、しかし、「あごろV」を存続してほしい」という声とともに、連日カンパが送られていることが報告された。

議論はあごろVの、実際には累積赤字でパンクしたともいえる財政問題と、それにからんでどうすれば全国の会員に情報を伝え続けられるのかという問題を行きつ戻りつしな

がら続いた。

具体的決定事項は次のとおり。

一、雑誌あごろVは、月刊は、各拠点もちまわり制を強化して簡単なものを存続させよう。特集は準備期間を最低一年とって力を入れて作ろう。

二、その内容については全国規模の「編集会議」を新たに設けて過去半年分の徹底した紙面批評と、向こう半年の編集計画を立て、最終的なあごろVのイメージの責任は「編集会議」が持とう。

三、とりあえず一、二月合併号を二月二十日頃までに、三、四月合併号を四月二十日頃までに発行し、その後のことは三月二十九・三十日に運営会議と拠点責任者会議と、第一回の編集会議を開いて細目を決定しよう。そこでは、

○雑誌『あごろ』の対象を誰におくのか  
○運営会議の役割、責任とは何か

四、事務局の事務の軽減、事務局機能のアップは財政の裏づけが不可欠なので、全力を

あげて本を売ろう。

会員のみなさんのご理解とご協力を初にお  
ねがいたい。(まとめ・山口・森川万智子)

おりという感じ。特集はいろいろな人がテ！ ◆小説・短歌・俳句・詩などもあっていいの

マに取り組んでるし、深まりもあるので読み返せます。ただ、おそらく他の人にとっては月刊が出ていることにも意味があることだと思いますし、なくなつていいとは思いません。なぜ月刊が私にとって重くないのか考えてみ

たいと思いますが、すぐに「おもしろくしよう」とは思わない。(札幌・後藤晶子・学生)

◆特集をいつも楽しみにしています。とても勉強になります。制作の手伝いが何もできないのに勝手なことを言うようですが、不定期刊になるのは非常に残念です。

◆月刊、毎号感銘を受けています。周囲には  
(埼玉・嶋末和子・製図)

日常それほど意識なく生活している人びとが多く、『あごら』を読むたびに力づけられま

す。特に悪いと思った号はありませんが、硬軟まじった号が読みやすく、グサリとくるジ

ヨークなども、かえって心のゆとりを感じます。  
(東京・南方純恵・医師)

◆小説・短歌・俳句・詩などあったいの

では？　今までの月刊では「女から男から」と塚崎さんの「あごら京都の十年」をおもし

ろく読みました。(愛知・浅野美和子・講師)

◆よかった、考えさせられた、印象に残った、

重かった、記事は、一〇二号では、堀場さんの詩、高橋喜久江さんのインタビュ―、老人を

介護して、鳥取会議報告でした。  
 (東京・近藤悦子・家裁調停委員)

◆今まででよかったのは「女と障害者」、山  
口の「指紋特集」、畠山さんの「児童扶養手

◆「老人を介護して」「女から男か」が叩  
当  
(福岡・三好久美子・SE)

象に残っている。よくないと思った記事は特  
 二ない。どうも記事のそんごんの意味があらと

（神奈川・松原やす子・主婦）

◆どの月刊も それぞれにおもしろかった。  
(京都・森岳章子)

◆「女から男から」―高橋喜久江さんのインタビュー―  
「怪傑ハウスハズバンド和音・不

協和音」がよかった。(愛知・釘宮順子・主婦)

◆山口からの特集は、テーマをきちんと追っていてもいい。(福岡・K・K)

◆全陣連の大会のレポートがよかった。

(神奈川・川田雪野・地域作業所指導員)

◆「哀れインドの花嫁たち」「金明観・戸籍について」「ドイツ青ざめた母の合評会」などが印象に残っています。(東京・X・Y)

◆よかったのは「女が働くということ」、悪かったのは「小樽会議そしてこれから」(T・T)

◆寄稿料の件、会員外の人たち、とくに主婦層へは依頼しやすいので、できれば図書券でなく現金の形で出るよう、極力お願いします。

(鳥取・前田亨子・英語塾講師)

◆鳥取会議でも話題にならなかったようですが、月刊の拠点持ち回り編集はそろそろ再考の時期に来ていると思います。

(札幌・細田英剛子・養護教諭)

◆原稿料は不用という投書に同感です。その分を事務局の「奉仕」分に充てるべきだと思います。今までの怠慢を反省して『あごら』の売り込みを始めるつもりです(最も不得手なことで効果は期待薄ですが)。ともかく、事務局の方の心身とも健全なご生活を前提とした範囲での息長い『あごら』を、と願って

おります。

(東京・H・K)

◆特集をカンパで発行するには反対です。特集はほしいのですが、カンパでは、またお金が要るでしょう。カンパでなく、予約販売を考えるべきです。希望者がたりない場合は中止になるかもしれませんが、ニーズがないと考えるべきでしょう。

(茨木・土屋隆司・会社員)

「資料の掲載をめぐって」

◆私がいま一番ほしかったのは、省令案・指針案の全文でした。解説や概要なら新聞・TVで十分。原資料は一般人には努力しないと

たやすく入手できるものではありません。そして、新聞の概要は男の目を引きやすいもの

だけがのせられていきます。この間も、朝日新聞だけを見てものを言った私と、この原案を読んでいた三井マリ子さんで解釈が異なりました。『あごら』は読みもののいいので

しょうか。生活一般に関する情報や意見、感想だったらそのへんにごろごろしています。正確な情報を活動する女たちに送り続けてほしい。一〇三号15〜28ページは、今後何度取り出してみることでしょう。「資料部」を作る

ののだったら、そちらにのみ入りたいくらいです。ぜひよろしく！(東京・石川由紀)

◆今後もぜひ資料をのせてください。硬い資料や硬い話ののっているからこそ『あごら』なのではないか？と私は考えています。

(埼玉・嶋末和子)

◆資料は私としてはありがたいと思っています。こういった資料は本当に手に入りにくいのです。これにかぎらず『あごら』からコピーしては、いばって人にあげています。女の情報はいくらでも粗末にされていますね。

(岐阜・岩田すみ子)

◆資料が掲載されることを歓迎いたします。それがオリジナルであることはとても貴重ですし、速報性も問われると思います。それが月刊であっても特集であってもかまわないのですが、月刊のほうが小回りがきくのではないかと思います。

(東京・柴 洋子)

◆資料が載ると固苦しくなる、という考え方のものに私はギモンを感じます。雑誌というものは固苦しいページもヤワなページもあっていいではありませんか。関心がなかったら、そこは読み飛ばせばいい。資料が入ると固苦しくなるから載せるな、というのはフェミニストらしくない態度のような感じがします。

(神奈川・井上和子)

# あと二千部売れば次の特集が出せます

## ナイロビ会議 細かく報告

### 女性情報資料誌「あこら」が特集



参加しており、特集の内容は当然ながらその報告が中心になっている。

会議後に政府機関、自治体、民間を含めてさまざまな形のナイロビ報告書が出されたが、これはその中でも最も包括的で詳細なものの一つといえよう。

内容は、フォーラムで開かれた日本女性によるワークショップの紹介および体験記、会議を取材した新聞・通信・テレビの男女ジャーナリストの座談会「あこら」会員の「わたしのナイロビ報告」、ケニア在住の日本人夫妻による「ケニアの人と大地」など。

一九七五年のメキシコ会議

ナイロビ号好評です。この新聞記事も利用して友人知人におすすめて。あと二千部売れば続刊、特集も出せます（10部で1割、20部で2割引きします）

以来コペンハーゲン、ナイロビと三つの世界会議を体験した斎藤千代さん（あこら）代表は「世界の流れが北から南へ音立てて流れて」おり、「その潮流はもはや変わらないうこと」を実感し、「この世紀末を乗り切れるのは「資本主義でも社会主義でもない第三の道」「エミニズムだ」との確信をナイロビでつかみ取った、と締めくくっている。

「あこら」二〇四号「特集号」ナイロビが語りかけるもの」はA5判、三四四頁、二〇〇〇円。購読申し込みは郵便振替口座東京052664 BOC あこら編集部（東京都新宿区新宿一ノ九ノ六）まで。

「編集後記」 名古屋女の

ファイトを見せた年賀状を今ごろお届けする失礼を幾重にもお詫びします。とにかく人命尊重、多少遅れてもよい」と温かい言葉をいただいたのをいいことに、

この号は頑張らずにつくりました。札幌からは早々と原稿がレイアウト済みで届いていました。読者と、名古屋、札幌の皆様、心からお詫びを申し上げます。

それにしても、名古屋という一地域を限っても、こんなに多くの活動があることに驚きます。均等法は、否が応でも社会通念を変えていくでしょうし、新しい女の世紀が始まる。けれどもそれは子産み、子育てにどうかかわるのか――。

いよいよこれからが問題ですね。

(R)